

久留米市地場企業景況調査レポート(平成29年7月～9月期調査分)

<調査目的>

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これら情報の集計結果を事業所へ提供し、経営に活用していただく。

<調査対象>

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社づつ、計600社を任意抽出して実施。

<調査要領>

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

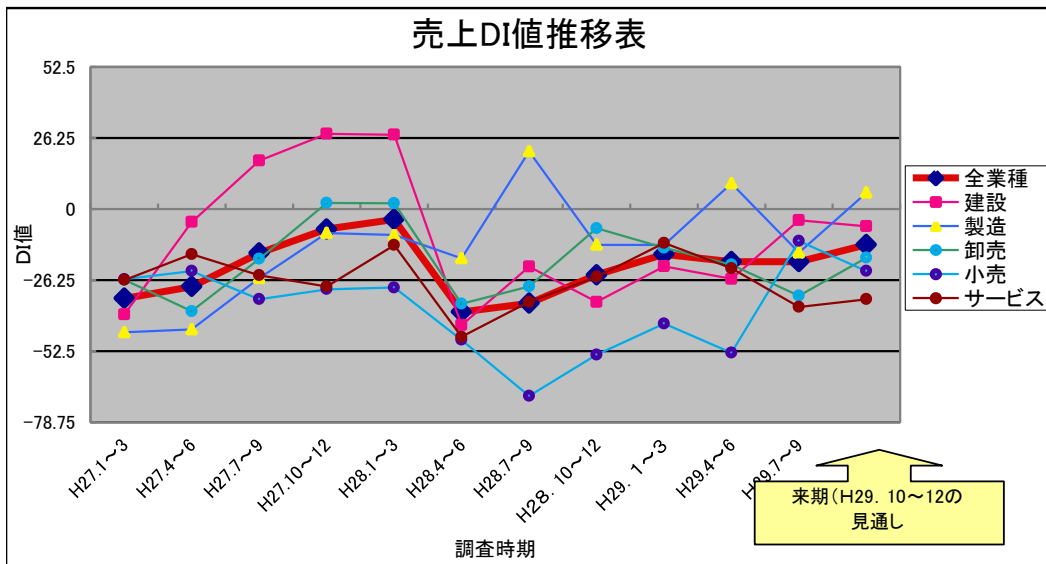
<DI値とは>

DI(ディーアイ。Diffusion Index:景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

<平成29年7月～9月期調査分回収結果>

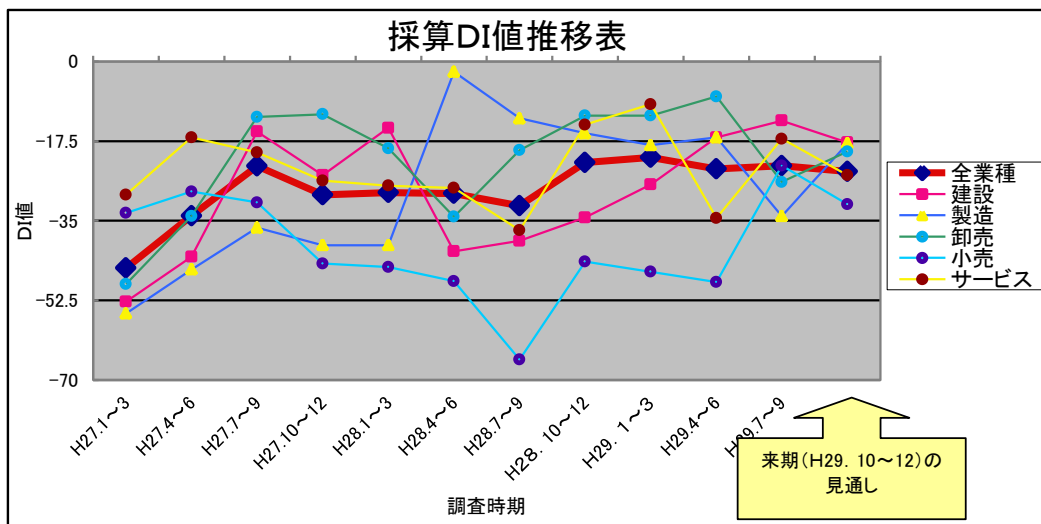
| 業種 | 対象事業所数 | 回答数 | 回答率 |
|-------|--------|-----|-------|
| 全業種 | 600 | 233 | 38.8% |
| 建設業 | 120 | 49 | 40.8% |
| 製造業 | 120 | 50 | 41.7% |
| 卸売業 | 120 | 51 | 42.5% |
| 小売業 | 120 | 35 | 29.2% |
| サービス業 | 120 | 48 | 40.0% |



今期(H29.7~9)の久留米市地場企業景況調査で「売上面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は55社(前期比15社増)、「悪化した」と回答した企業は99社(前期比25社増)、「横ばいである」と答えた企業は73社(前期比12社増)であった。DI値を見ると、

▲19.4となり、前期と変わらなかった。

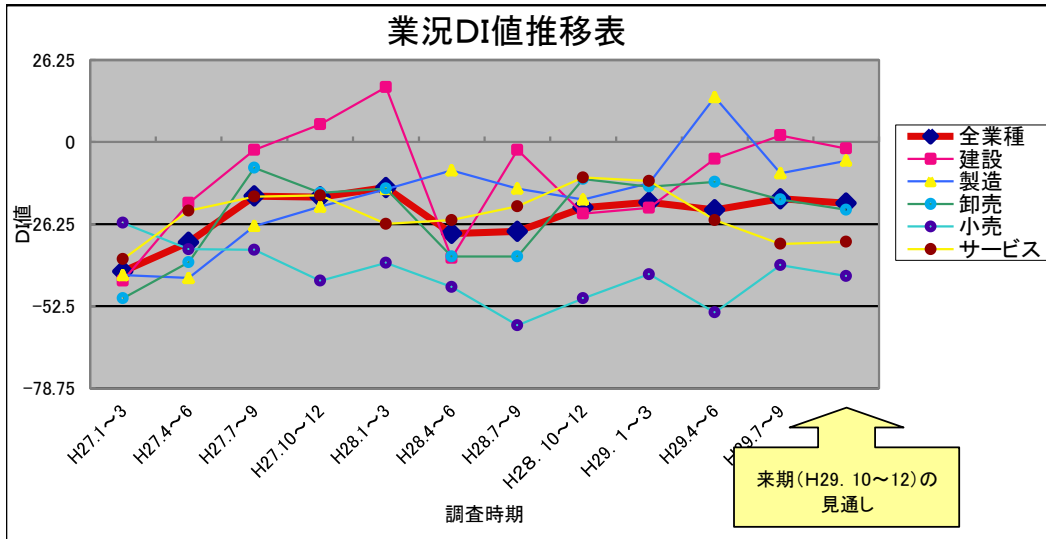
業種別に見ると、建設業▲4.1(前期比21.7P悪化)、製造業▲16.0(前期比25.5P悪化)、卸売業▲32.0(前期比11.5P悪化)、小売業▲11.8(前期比41.3P好転)、サービス業▲



今期(H29.7~9)の久留米市地場企業景況調査で「採算面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は38社(前期比7社増)、「悪化した」と回答した企業は90社(前期比20社増)、「横ばいである」と答えた企業は99社(前期14社増)であった。DI値を見ると▲22.9となり、前期比で0.7P好転した。

業種別に見ると、建設業▲13.1(前期比3.6P好転)、製造業▲34.0(前期比21.0P悪化)、卸売業▲26.5(前期比18.8P悪化)、小売業▲22.9(前期比25.6P好転)、サービス業▲17.0(前期比17.4P好転)となった。

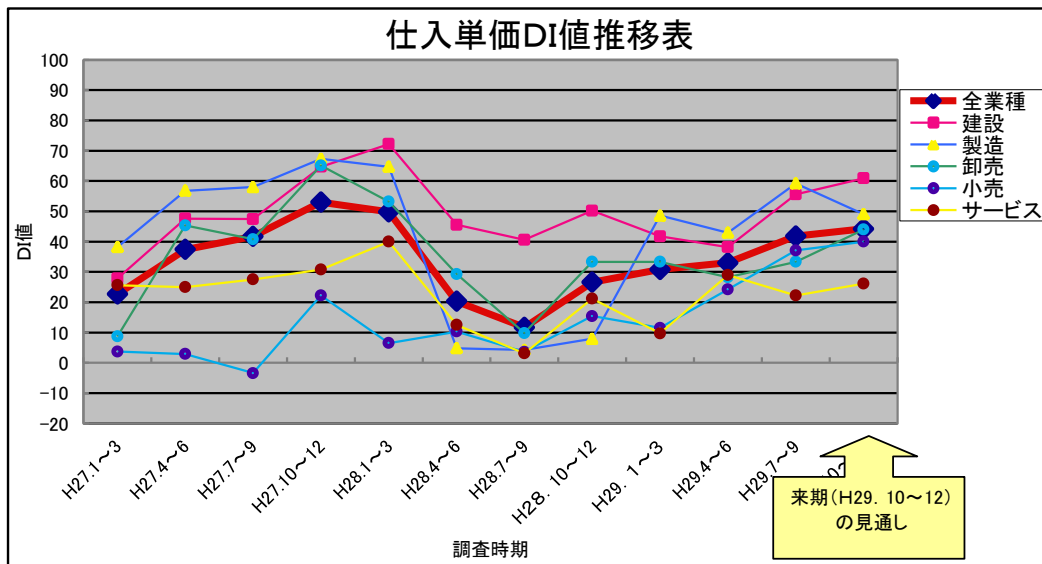
来期(H29.10~12)の見通しでは全業種DI値は▲25.0と1.8P悪化する見込み。



今期(H29. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「業況面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は32社(前期比9社増)、「悪化した」と回答した企業は73社(前期比11社増)、「横ばいである」と答えた企業は120社(前期比24社増)であった。DI値を見ると▲18. 2となり、前期比で3. 5P好転した。

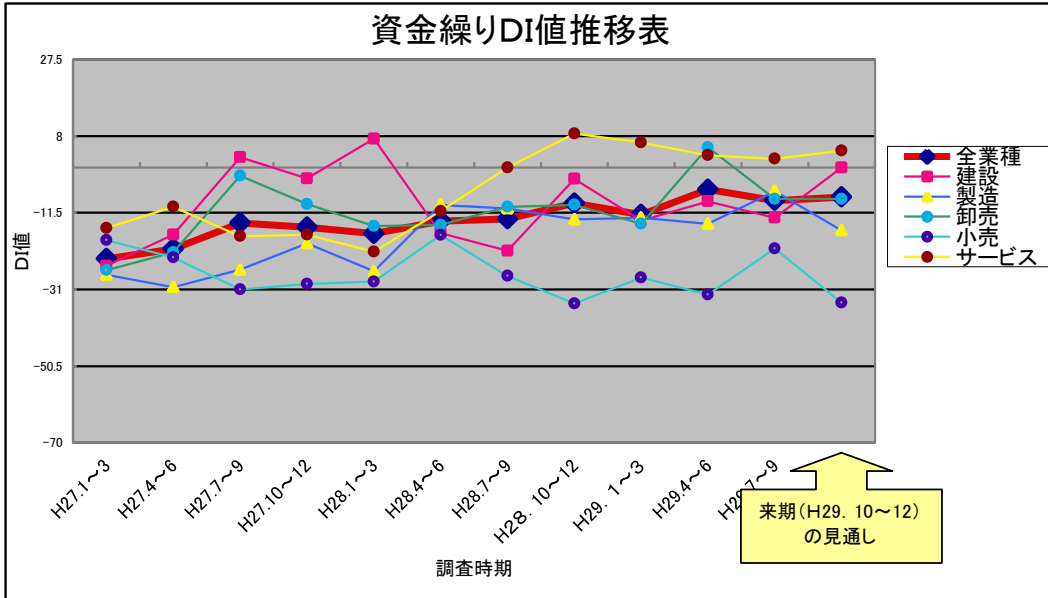
業種別に見ると、建設業2. 1(前期比7. 5P好転)、製造業▲10. 0(前期比4. 3P好転)、卸売業▲18. 4(前期比5. 6P悪化)、小売業▲22. 9(前期比31. 6P好転)、サービス業▲32. 6(前期比17. 6P悪化)となった。

来期(H29. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲19. 6と1. 7P好転の見込み。



今期(H29. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「仕入単価」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は103社(前期比35社増)、「低下した」と回答した企業は9社(前期比不変)、「横ばいである」と答えた企業は113社(前期比11社増)であった。DI値を見ると、41. 8Pとなり、前期比で8. 8P増加した。

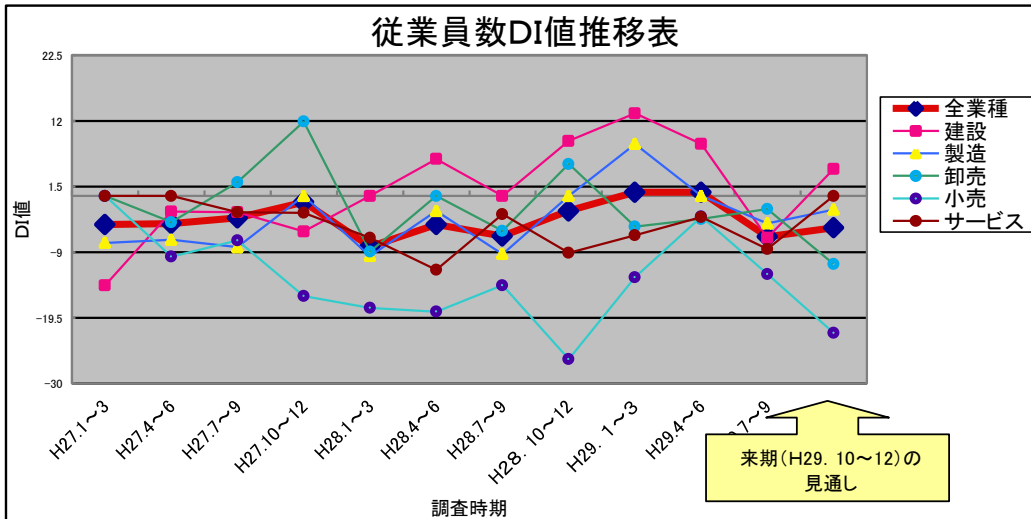
業種別に見ると、建設業55. 6(前期比17. 4P低下)、製造業59. 2(前期比16. 3P低下)、卸売業33. 3(前期比5. 1P上昇)、小売業37. 1(前期比12. 9P増加)、サービス業22. 2(前期比6. 8P低下)となった。



今期(H29.7~9)の久留米市地場企業景況調査で「資金繰り」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は16社(前期比2社減)、「悪化した」と回答した企業は35社(前期比7社増)、「横ばいである」と答えた企業は175社(前期比41社増)であった。DI値を見ると▲8.4となり、前期比で2.8P悪化した。

業種別に見ると、建設業▲12.8(前期比4.2P悪化)、製造業▲6.0(前期比8.3P好転)、卸売業▲8.0(前期比13.1P悪化)、小売業▲20.6(前期比11.7好転)、サービス業2.2(前期比0.9P悪化)となった。

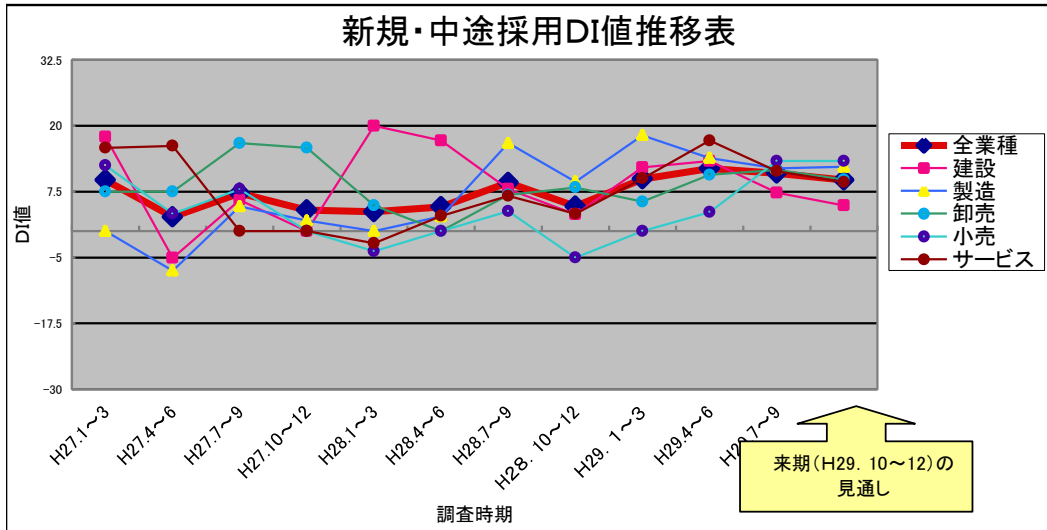
来期(H29.10~12)の見通しでは全業種DI値は▲7.5と1.9P悪化の見込み。



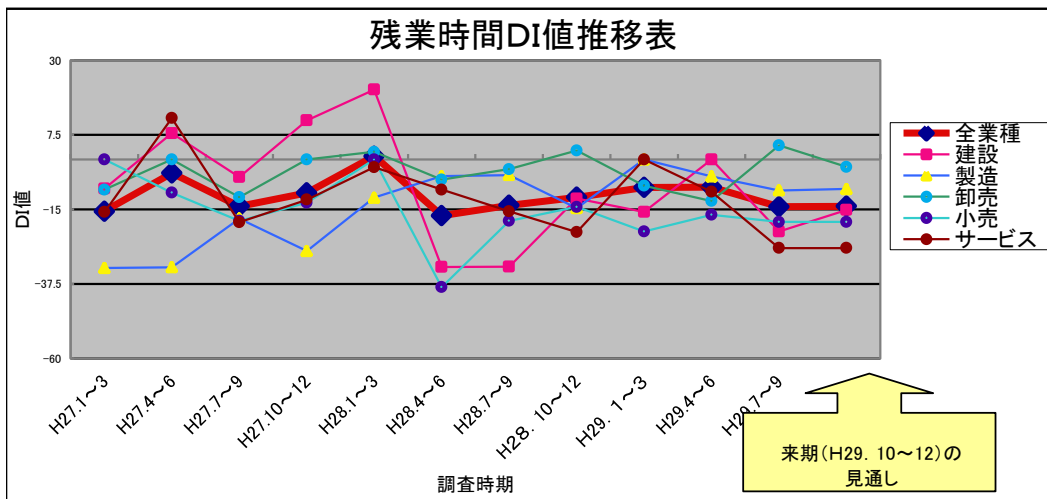
今期(H29.7~9)の久留米市地場企業景況調査で「従業員数」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は32社、「減少した」と回答した企業は46社、「横ばいである」と答えた企業は138社であった。DI値は▲6.5となった。

業種別に見ると、建設業▲6.7、製造業▲4.4、卸売業▲2.1、小売業▲12.5、サービス業▲8.5となった。

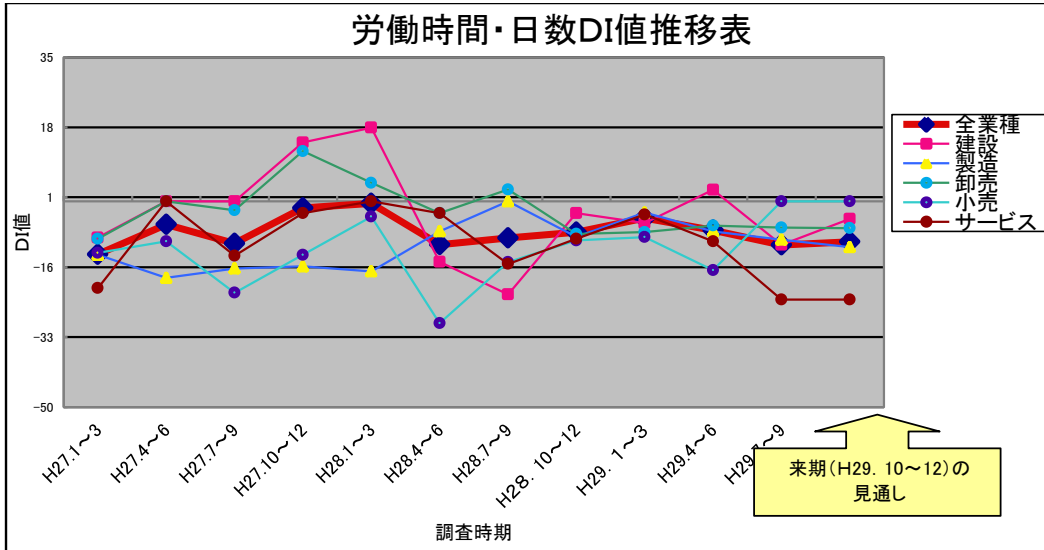
来期(H29.10~12)の見通しでは、全業種DI値は▲6.5と9.6P減少となる見込み。業種別に見ると、建設業4.3、製造業▲2.2、卸売業▲10.9、小売業▲21.9、サービス業0.0と



今期(H29. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「新規・中途採用」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は32社、「減少した」と回答した企業は10社、「横ばいである」と答えた企業は158社であった。DI値は11.0となった。
業種別に見ると、建設業7.3、製造業11.9、卸売業11.6、小売業13.6、サービス業11.4となった。
来期(H29.10~12)の見通しでは、全業種DI値は9.7となる見込み。業種別に見ると、建設業4.9、製造業12.2、卸売業9.8、小売業13.3、サービス業9.3となる見込み。



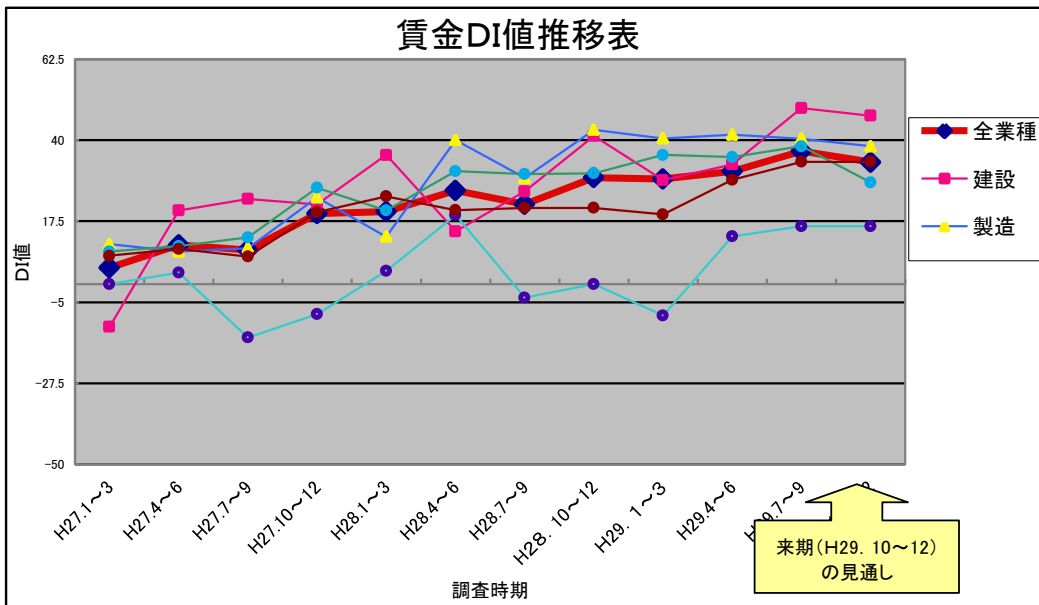
今期(H29. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「残業時間」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は18社、「減少した」と回答した企業は48社、「横ばいである」と答えた企業は146社であった。DI値は▲14.2となった。
業種別に見ると、建設業▲21.7、製造業▲9.3、卸売業▲2.2、小売業▲18.8、サービス業▲26.7となった。
来期(H29.10~12)の見通しでは、全業種DI値は▲14.1となる見込み。業種別に見ると、建設業▲15.2、製造業▲8.9、卸売業▲2.2、小売業▲18.8、サービス業▲26.7となる見込み。



今期(H29.7~9)の久留米市地場企業景況調査で「労働時間・日数」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は9社、「減少した」と回答した企業は32社、「横ばいである」と答えた企業は176社であった。DI値は▲10.6となった。

業種別に見ると、建設業▲10.6、製造業▲8.7、卸売業▲6.4、小売業0.0、サービス業▲23.9となった。

来期(H29.10~12)の見通しでは、全業種DI値は▲9.8となる見込み。業種別に見ると、建設業▲4.3、製造業▲11.1、卸売業▲6.5、小売業0.0、サービス業▲23.9となる見込

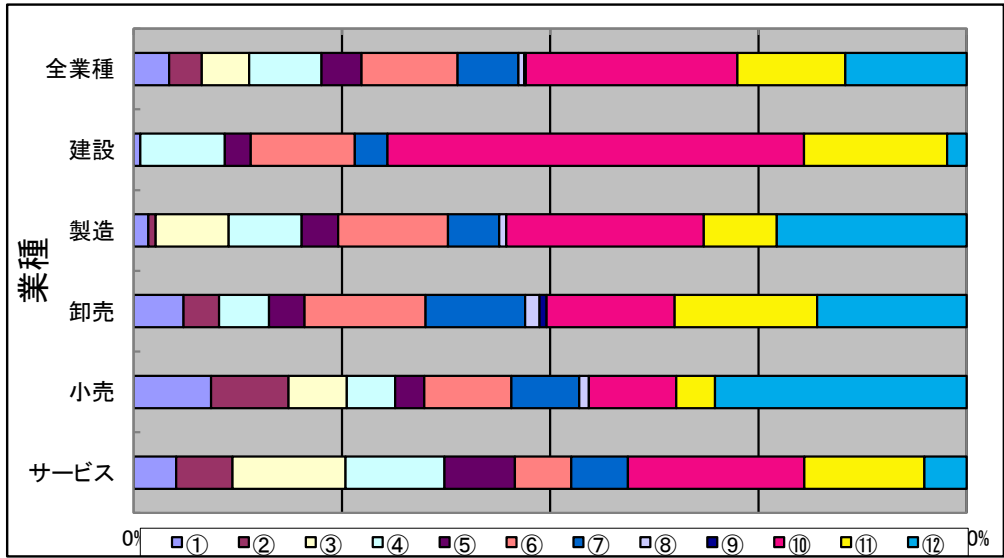


今期(H29.7~9)の久留米市地場企業景況調査で「賃金」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は90社、「減少した」と回答した企業は9社、「横ばいである」と答えた企業は120社であった。DI値は37.0となった。

業種別のDI値では、建設業48.9、製造業40.4、卸売業38.3、小売業16.1、サービス業34.0となった。

来期(H29.10~12)の見通しでは、全業種DI値は28.0となる見込み。業種別に見ると、建設業46.8、製造業38.3、卸売業28.3、小売業16.1、サービス業34.0となる見込み。

経営上の問題点



①大企業の進出による競争の激化 ②同業者の進出 ③消費者ニーズへの対応 ④人件費の増加
 ⑤人件費以外の経費の増加 ⑥仕入単価の上昇 ⑦販売価格の低下 ⑧金利負担の増加 ⑨事業資金の借入難
 ⑩従業員の確保難 ⑪需要の停滞 ⑫その他

今期(H29. 4~6)の経営上の悩みとしては、「従業員の確保難(20.5%)」「需要の停滞(17.1%)」「仕入単価の上昇(10.1%)」を指摘する声が多く寄せられている。
 「従業員の確保難」の各業種の内訳は建設業(37.1%)、製造業(27.0%)、卸売業(10.1%)、小売業(11.2%)サービス業(14.6%)。

<事業所から寄せられた主なコメント>

【建設業】

職人さんの工賃が上昇売り手市場となっている。(総合工事業・建築)
 以前から求人広告を出しているが、1件も問い合わせがない。(設備工事業)
 数十年仕事してきて、8~9月の受注が少なかったのは初めて。(職別工事業)
 公共事業が多く発注され人手不足に拍車がかかっており、民間受注が大きく減少するのではないか。(塗装)

【製造業】

人出不足で困っている。なかなか人材が寄らない。(鉄鋼・金属製品製造業)
 繁忙・閑散時の業務差が大きい。(鉄鋼・金属製品製造業)

【卸売業】

生活に密着しているものは売れるが、それ以外は停滞している。(貴金属・宝飾品卸売業)
 運賃の値上げが重い負担になっている。(食料品包装資材卸売業)
 従業員を増やしたいが、利益が出ないことには人件費がでせない。(医薬品・化粧品卸売業)

【小売業】

ネットで購入しているのか、お店に人が来ていないのが気になる。(織物・衣服・身の回り品小売業)
 出店のよき物件が見つからない。(織物・衣服・身の回り品小売業)
 久留米市の将来性を高く評価した野村総研の改革を進めたらよいと思う。(理美容業)
 経営環境は年々厳しくなるが、最低賃金が上昇し、収益を圧迫している。(飲食業)
 OA機器操作の勉強をしたがらない従業員が目立つ。(運輸・通信業)
 IoTやAIといった新技術の技術者育成と顧客の新規需要の開拓が課題(情報サービス業)
 4,5日出勤して後は出勤しない人がおり、困っている。(クリーニング業)
 仕入れ業者の価格競争が激しく、サービスの質と価格をどう維持していくかが課題(歯科医業)